

物流・港湾厚生施設指定管理者評価委員会 平成 20 年度第 2 回委員会会議録概要

- 1 日 時：平成 20 年 10 月 29 日（水）13 時 30 分～17 時
- 2 会 場：産貿 6 階応接室
- 3 出席者：來生委員、塩畑委員、富田委員、松橋委員 三縄委員

（決定事項）

1 評価項目等について

第 1 回委員会時の議論を踏まえ、評価項目と ABC の三段階で評価を実施することを確定。また、評価にあたってはヒアリングを実施することを確認。

2 各指定管理者の評価実施

事業計画書、事業報告書等の書類及び自己評価結果並びにヒアリング内容をもとに、委員ごとに各指定管理者の評価を付け、その後、委員全体の意見交換を行い委員会としての評価を取りまとめた。

全体評価は各指定管理者とも B 評価となった。

3 次回日程について

12 月 15 日（月）14：00～15：00、評価結果・講評を報告書にまとめることとした。

○会議の内容

【議 事】

評価項目・基準・方法についての最終決定

第一回委員会での議論を踏まえ、事業計画書、事業報告書、選定時の提案書等の書類や自己評価結果、ヒアリング内容をもとに、ABC 三段階で評価することを決定した。

ヒアリング

各指定管理者から、5 分程度で自己評価結果等について簡単に説明をした後、評価委員からの質疑応答を行った。

①建材取扱施設指定管理者 横浜港建材ふ頭運営会

指定管理者からの説明

本牧ふ頭、金沢木材ふ頭、瑞穂ふ頭という地理的に離れた場所にある施設だが、少ない職員数であってもローテーションを組み 1 日に 1 回は必ず巡回し、点検表を作成しチェックするなど、仕様で定められた内容より緻密な管理体制を敷いている。これまで大きな問

題はなく、順調な管理運営を行っているものと考えている。

委員 大きな問題は起きていないとのことだが、小さな事故等が発生したことはあるのか。

指定管理者 船舶が防舷材に衝突し、防舷材の修繕が必要になったことはあるが、大きな被害には至らずに済んだ。また、事故等を未然に予防する視点からの対策にも取り組んでいる。

委員 事故対応・災害時の連絡体制の確立を行うのは当たり前だと思うが、日常的にそれがうまく機能しているという理解で良いか。

指定管理者 連絡体制の確立にとどまらず、骨材関係部会やふ頭ごとの組合の会合などの場を活用し、手順の確認や改善に努めている。

委員 職員の年齢層が比較的高いとのことだが、IT の活用などについての取り組み状況はどうか。

指定管理者 局の海務課とのオンライン化などを昨年からは実施している。また、建材ふ頭運営会のホームページを立ち上げ、ユーザーとの日常的なやり取りに役立てることを計画中である。

委員 選定時、提案書で将来的に金沢木材ふ頭、瑞穂ふ頭の職員常駐体制を検討すると明記しているが、昨今貨物取扱量が減少傾向のようである。計画の変更や人員削減なども検討しているのか。

指定管理者 施設の利用率が下がっているため、一部業務の縮小をしており、職員の常駐ではなく巡回で対応している。

委員 ユーザーニーズの聴取はどのように行っているのか。また、指定管理者導入以前より巡回頻度を増やすなどしているようだが、サービス向上につながっているのか。

指定管理者 平成 19 年度末に建材ふ頭運営会の会員店社に評価アンケートを実施し、おおむね良好との評価を受けている。

委員 3つのふ頭にまたがる施設を管理運営しているが、それぞれの性格の違いに応じた工夫などは行っているか。

指定管理者 基本的には各施設とも性格の違いがあるわけではない。

委員 平成 18 年度、平成 19 年度の収支ベースでは、単年度で赤字決算となっているが、

施設整備積立金を除いて考えれば収支には余裕があるものと理解して良いか。

指定管理者 ご指摘のとおり。建材ふ頭運営会は任意団体であり、資本金を持たないことから、ある程度の繰越金を留保している。

②本牧ふ頭の上屋等指定管理者 横浜港ターミナル運営協会

指定管理者からの説明

これまで培ってきたユーザーとの顔の見える信頼関係が大きな強みであり、これを生かして、施設巡回時に点検や修繕、各種申請書の回収などを行うほか、ユーザーニーズの聴取などに努めている。また、自衛消防隊の設置等、選定時に提案した事項にも取り組んでいる。

委員 選定時に提案した上屋及び荷さばき地の効率的な運用、使用許可方法の改善、区画割りの変更などについてはどのように対応しているのか。

指定管理者 まずは、利用率の低下している荷さばき地の区画から他の用途にすることなど、効率的な区画割りについて現在局と調整している。

委員 関連団体との連携を提案書で謳っているが、指定管理者になる前となった後では何か変化があったか。

指定管理者 ふ頭内の各業界団体等とも引き続き連携を深めるとともに、ユーザーと連携した自衛消防隊を結成するなど、新たな連携策にも取り組んでいる。

委員 自主事業の予算を見ると、選定時に提示した当初計画とのずれがあるようだが、なぜか。収支は均衡しているのか。

指定管理者 清掃のみを自主事業という扱いにすることに変更したため提案時より少ない額となっている。収支状況は、業務全体を見ても自主事業部分のみを見ても、ほぼ均衡している。

委員 自己評価 A を付けた巡回・警備業務については、仕様書以上にやっているということか。

指定管理者 サミットに伴う警備強化や花火などのイベント開催時に24時間体制での対応を取るなど、安全対策に力を入れてやっている。利用者の最も身近な存在として現場の声を指定管理業務に活かすことを心がけながら巡回・警備業務を行っている。

委員 適切な利用情報の提供に関して自己評価 A となっているが、具体的にどのようなことを実施しているのか。

指定管理者 毎日、午前午後1回ずつ巡回しており、この時に指定管理者としての情報提供と、ユーザーからのニーズの吸い上げという双方向コミュニケーションを行っている。この時に寄せられた施設の維持管理に関する要望などについて、早めに処理を行っている。

その他にも、ホームページや紙の媒体での情報提供を行うほか、ふ頭内案内図を作成し配布したりもしている。また、ユーザーで構成される本牧埠頭会の事務局として関係各社間の情報交換を円滑にする役割を担っている。

委員 警備・保安の確保が自己評価 A となっているが、具体的にはどのようなことを行っているのか。

指定管理者 本牧埠頭会が中心となって、労働安全パトロールを年9回実施するほか、日常的にも、各上屋に、温湿度計を設置し熱中症等の予防に役立ったり、安全帽着用を呼び掛ける看板を購入して見えやすい場所に掲示したりするなど、安全面の啓発活動に力を入れている。

③港湾関係厚生施設指定管理者 (社) 横浜港湾福利厚生協会

指定管理者からの説明

指定管理の対象施設と自らの所有する厚生施設とを一体的に管理しており、効率化を図っている。情報共有について自己評価で A を付けたが、大規模修繕が必要となった際などに局等と緻密な連絡をとることによって迅速な対応をとっている。また、自主事業提案を行っていないため記載していないが、自主的に今年度 AED の設置を計画中であり、港で働く方々の福利厚生の上につなげていきたいと考えている。

委員 施設利用に関するアンケートでは、特段利用しにくいなどの問題はないようだが、この結果を踏まえて何か工夫をしたのか。

指定管理者 アンケートでは、特に緊急性を要する改善要望等は寄せられなかったものの、住宅に関して、クーラーの設置や風呂を 365 日使えるようにしてほしいなどの要望があった。電気容量等の関係で早急な対応が難しいこともあり、現時点では対応不可となっている。

委員 指定管理者になって良くなったことは何か。

指定管理者 受託者から指定管理者となったことで、協会職員の意識が一層高まり、港で働く方々の福利厚生の上という使命を改めて認識しながら取り組んでいる。

委員 経費削減は図られたのか。

指定管理者 サービスの質を落とさないことを重視しており、必要以上の経費削減には慎

重である。だが、協会の施設と一体的に管理することによる効率化の効果は出ている。

委員 平成 18 年度 19 年度の収支が赤字になっているようだがなぜか。

指定管理者 仕様書に定められてはいないが、安全上必要と判断したため、住宅に管理人を置いており、配置体制の結果赤字となった。

委員 各ふ頭に施設があるが、利用者の傾向が違うなどの差異はあるのか。また、それぞれの特性に応じた管理運営を工夫しているか。

指定管理者 立地場所により利用者の傾向の違いはある。そのため、食堂では、施設ごとにメニューを変えるなどニーズを取り入れて工夫をしている。

委員 自己評価結果を見ると、全体的に B 評価となっているが、もう少し高い評価でもよかったところがあるのではないか。

指定管理者 各施設を個別に評価すると A でもいいところはあるのだが、施設全体を一つの評価としてみると B となる箇所が多い。

委員 施設特性から大々的に外部向けに利用促進のための働きかけをすることは難しいだろうが、何か施設利用促進策を工夫しているか。

指定管理者 従来からやっていることをさらに充実させるという視点だが、ホームページを充実させ、情報量を増やすなどしている。また、波止場会館では平成 19 年度からホールの改修や椅子・テーブルの取り換えなど、より使いやすい施設となるように改善を進めている。

委員 ソフト面のサービスが主体なので、「民」の特長を生かしやすい分野だと思われるが、工夫等はなにかしているのか。

指定管理者 不特定多数の方に来ていただける施設ではないため、制約がある中で工夫をしている。

④コンテナターミナル関連施設指定管理者 (財) 横浜港埠頭公社

指定管理者からの説明

指定管理者として管理運営を行ってきた 1 年半を振り返り、自己評価では 4 つの A を付けた。コンテナ関連の窓口が埠頭公社に一本化されたことや公共公社連続バースの一体利用を調整するなどの利便性の向上が利用者アンケートでも評価されている。公社内での打合せや局との連携などを密に行っていることなどを A と評価している。今後もユーザーサービス向上に向けて取り組んでいきたい

委員 自己評価では全体的に B と謙虚な評価になっているが、窓口が埠頭公社に一本化したことなどはユーザーの利便性向上につながっており、もっと高く評価しようとは思わなかったのか。

指定管理者 制度制約がある中でユーザーサービス向上に努めていることから、B 評価とした。

委員 公社・公共施設の相互融通などに取り組んでいるようだが、どのように工夫しているのか。

指定管理者 利用者会議の場を設け、日常的に情報交換しながら調整を図っている。これにより、例えば本牧 D 突堤では、岸壁改修工事で使用できない場所があるが、隣の公社ターミナルに船を着岸させるなど柔軟な対応が可能となっている。

委員 利用者アンケートでは、配船・バース決定までの時間が短縮できないかという要望がでてきているようだが、どのように対応するのか。

指定管理者 国有岸壁は指定管理業務に入れられないため、配船業務は指定管理業務とは別の業務委託として受けている。埠頭公社のバースでは、ターミナルの借受者が自ら配船をしているため、埠頭公社ではこれまで配船業務を行っておらず、今回初めて担う業務のため、慣れない面があり遅いという声が上がっている。業務開始後一定の期間が過ぎ、要領をつかんできているので、今後改善が図れると考えている。制約上指定管理業務に入らない業務とも一体的に機能させてサービス向上につなげている。

委員 収支面を見ると、収支差額が 1%だが、消費税の扱いがわかりにくい。どうしているのか。

指定管理者 未払い金として計上している。

委員 選定時の提案書には、南本牧ターミナル前道路混雑情報の画像配信という提案があるが、進捗状況はどうか。

指定管理者 検討予定である。本牧 BC ターミナルについては、すでに局が静止画像の更新という形で実施している。南本牧については、映像でリアルタイムに提供していきたいと考えており、検討段階。

委員 どれくらいのニーズがあるかを見越して検討する視点で取り組んでもらいたい。

指定管理者 費用もそれなりにかかるものなので、既存の横浜港コンテナ貨物情報システムなどと合わせた有効策を検討していきたい。

委員 ニーズに応じた柔軟な計画の運用を図ってもらいたい。

意見交換

委員 各委員の評価を集計し、総合評価にまとめたものをお示しさせていただくので、講評等ご意見をいただきたい。

委員 評価材料が少ない。自己評価結果の概略と評価理由を説明した資料などがあればより深い評価ができると思う。

委員 まだ新しい制度であり、評価の仕方も手探りであった。今後、評価方法を進化させていくべきと考える。今回は局の評価を参考にすることはしなかったが、指定管理者を指定した人（つまり局）が指定された人（つまり指定管理者）のパフォーマンスをどのように評価するかも参考になる可能性もあるのではないか。ただし、局の評価が評価委員を誘導するようであってはならない。指定管理者の自己評価と局の評価を対比させて、そのギャップを浮き彫りにするという方法を取ってもよかったのかもしれない。評価する側としても、次回につなげていきたい。

【次回委員会日程】

各委員の日程を調整し、次回は12月15日（月）14：00～15：00に最終回を開催し、評価結果をとりまとめることとした。